

インフォームドチョイスと週1回投与型経口血糖降下剤に関する 医師と2型糖尿病患者の意識調査

健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業を行う株式会社 QLife (キューライフ/本社: 東京都港区、代表取締役: 有瀬和徳) は、キッセイ薬品工業株式会社のスポンサーのもと、2型糖尿病患者 (以下「患者」) 806 例ならびに2型糖尿病患者を診療する医師 (以下「医師」) 200 例を対象に、インフォームドチョイス (以下「ICh」) と週1回経口血糖降下剤 (以下「週1回製剤」) についての意識調査を実施し、その結果が「薬理と治療」誌 2021年7月号 (<http://lifescience.co.jp/yk/yk21/ykj2107.html>) に掲載されました。

今回の調査結果から、以下について明らかになりました。

- 医師が ICh を実施している割合は 51.4%、ICh を経験したことがある患者の割合は 23.1% で、乖離が見られた。
- ICh の経験がなく、ICh を希望する患者は 57.4% で、受診頻度が低い、糖尿病の状態が悪い、糖尿病薬の服薬継続に負担を感じている、という傾向が見られた。
- 医師と患者が ICh によって治療を選択することは、医師と患者の認識のギャップを解消し、患者の治療満足度向上に寄与すると考えられる。
- 1種類でも週1回製剤への変更を希望する患者の割合は、医師の回答では平均 $43.0 \pm 26.5\%$ 、患者の回答では 82.9% で乖離が見られた。
- 週1回製剤は、単剤服用から多剤服用まで幅広い患者にニーズがあり、個別に把握する必要があるため、ICh の実施が重要である。

今回の調査結果について、東邦大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌学分野教授の弘世貴久先生は、「ICh の実施と、週1回製剤の希望という点で、医師と患者の回答に乖離があった。今後 ICh によって、医師が患者に、週1回製剤を選択できることを示すなど治療についてしっかり説明することが必要であろう。それにより、患者側に自分が選択したという責任感と一緒に治療していく意識が生まれ、患者の治療満足度や治療の成功に結び付くであろう」と指摘しました。

【調査結果の概要】

患者背景

回答者 806 例の平均年齢は 58.5 ± 11.8 歳、男性が 75.6% で、平均罹病期間は 12.4 ± 10.1 年でした。処方されている糖尿病薬の種類は平均 2.2 ± 1.4 種類、糖尿病薬の服用錠数は平均 3.5 ± 2.8 錠、処方されているすべての薬剤の種類は 5.1 ± 3.7 種類、服用錠数は 7.6 ± 6.9 錠でした。

医師背景

回答者 200 例の平均年齢は 52.1 ± 11.4 歳、男性が 91.0% で、2 型糖尿病患者の平均診療人数は月に 98.1 ± 78.0 人でした。

患者の年齢層

医師が診療している患者の年齢層は 60 代 (47.0%) が最も多く次いで 70 代 (27.0%) でした。調査に回答した患者の年齢層は 50 代 (33.6%) が最も多く次いで 60 代 (24.9%) でした。

服薬遵守率

服薬遵守している患者の割合は、医師の回答では平均 $78.3 \pm 14.3\%$ 、患者の回答では $93.8 \pm 9.7\%$ で、患者の回答のほうが高率でした。

薬剤の飲み忘れ

薬剤を「ほぼ飲み忘れることはない」患者の割合は、医師の回答では 7.5%、患者の回答では 55.2% でした。

「ほぼ飲み忘れがない状態」に対する医師と患者の認識が同様でない可能性が考えられます。

薬剤の飲み忘れと服用する薬剤数の関係について、「関係する／どちらかといえば関係する」という回答は医師 91.0%、患者 22.9% で、医師と患者の認識に大きな差がありました。患者の多くが多剤服用はアドヒアランスの低下につながらないと考えていることが示されました。

インフォームドチョイス (ICh)

医師が ICh を実施している割合は 51.4%、ICh を経験したことがある患者の割合は 23.1% で、医師と患者の回答に乖離が見られました。

ICh を希望する患者の割合は、医師回答では 51.4%、ICh を経験したことのない患者では 57.4% でした。ICh を希望する患者は、受診頻度が低い、糖尿病の状態が悪い、糖尿病薬の服薬継続に負担を感じている、という傾向が見られました。

週 1 回経口血糖降下剤 (週 1 回製剤)

1 種類でも週 1 回製剤への変更を希望する患者の割合は、医師の回答では平均 $43.0 \pm 26.5\%$ 、患者の回答では 82.9% でした。週 1 回製剤への変更を希望する患者は、就業者、服用継続への負担感あり、ICh を希望、服薬順守率が低い傾向にありました。

また、週 1 回製剤を希望する患者は単剤服用から多剤服用まで広範に存在し、一元的な判断が困難であり、ICh により個別のニーズを把握することが重要であると考えられます。

医師回答で、週 1 回製剤に対する肯定的な意見は、服用薬剤数の減少 (48.5%)、飲み忘れの減少 (28.5%) でした。否定的な意見は、飲み忘れの心配 (52.0%)、1 種類だけの変更ではメリットがない (32.5%) でした。患者が週 1 回製剤を希望する主な理由は、服用する薬剤数の減少 (56.3%)、薬剤の変更による治療効果への期待 (38.8%)、飲み忘れの減少 (33.3%) でした。希望しない主な理由は、飲み忘れの心配 (11.2%)、今のままの薬剤で十分 (6.2%) でした。



■調査主体：株式会社 QLife（キューライフ）

●実施概要：

調査対象：2型糖尿病治療のために医療機関に定期的（3か月に1回以上）に通院しており、週1回経口血糖降下剤を服用していない2型糖尿病患者、月に5名以上の2型糖尿病患者の診療を行っている医師

有効回収数：患者 806 名、医師 200 名

調査方法：インターネット調査

調査時期：2020年11月27日～12月28日

【会社概要】

会社名：株式会社 QLife（キューライフ）

所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-21 虎ノ門33森ビル10F

代表者：代表取締役 有瀬和徳 設立日：2006年（平成18年）11月17日

事業内容：健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業 URL：<http://www.qlife.co.jp>

お問い合わせ先：株式会社 QLife TEL：03-6860-5020/E-mail：info@qlife.co.jp